

ベフラン® 液剤25

(BEFRAN L)

登録番号 第21467号
 種類名 イミノクタジン酢酸塩液剤
 iminoctadine triacetate
 殺菌剤分類 M7
 性状 淡黄色澄明水溶性液体
 有効年限 5年(500ml、1ℓ)
 4年(20ℓポリ缶)

有効成分 イミノクタジン酢酸塩 25.0%
 PRTR ポリ(オキシエチレン) = アルキルエーテル(PRTR・1種) 5.0%
 毒性 医薬用外劇物
 包装 500ml×20本、1ℓ×15本、20ℓポリ缶×1

■特長

- 幅広い抗菌スペクトラムと優れた予防効果と残効性があります。
- 細胞膜に作用し、膜機能や脂質合成を阻害します。また、他剤と作用点異なるため、各種の薬剤耐性菌に対しても高い効果があります。
- 液剤なので収穫物の汚れが少なく、種子消毒の作業性にも優れます。

■適用病害名及び使用方法

(2020年6月18日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	使用方法
麦類 (小麦を除く)	雪腐大粒菌核病	1,000	60～150ℓ/10a	根雪前	2回以内	3回以内 種子への処理は1回以内、 散布は2回以内、 出穂期以降は1回以内	散布
	紅色雪腐病	10	乾燥種子1kg当り 30～50ml	は種前	1回		塗沫処理
		5	乾燥種子1kg当り 15～25ml				
	条斑病、網斑病 ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液	乾燥種子1kg当り 3～5ml	10～30分間 種子浸漬			
	斑葉病	250～500	—				
	なまぐさ黒穂病	1,000～2,000	—				
小麦	赤かび病	1,000	60～150ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内 ただし 出穂期以降は1回以内	散布	
	うどんこ病 葉枯症 雪腐大粒菌核病	1,000		根雪前			
	紅色雪腐病	250	25ℓ/10a	は種前	1回	4回以内 種子への処理は1回以内、 散布および無人航空機散布は合計3回以内、 出穂期以降は1回以内	塗沫処理
		10	乾燥種子1kg当り 30～50ml				
		5	乾燥種子1kg当り 15～25ml				
	条斑病、ふ枯病 なまぐさ黒穂病	原液	乾燥種子1kg当り 3～5ml	種子吹き付け処理 または 塗沫処理			
なまぐさ黒穂病	1,000～2,000	—	10～30分間 種子浸漬				

殺菌剤 ベフラン液剤 2.5

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	使用方法
りんご	腐らん病	500～1,000	200～700 ℓ/10a	休眠期	6回以内 〔ただし 開花期以降 散布は 3回以内〕	8回以内 〔液剤および水和剤 は合計6回以内 (開花期以降 は3回以内)、 塗布剤は2回以内〕	散布
	モニリア病 腐らん病、黒星病 うどんこ病	1,000		展葉期			
	黒星病	1,500		収穫前日 まで			
	斑点落葉病 褐斑病、輪紋病 すす点病 すす斑病	1,500～ 2,000					
	紫紋羽病	250	—	苗木植付前	—	根部浸漬	
ぶどう	晩腐病	250～500	200～700 ℓ/10a	休眠期	1回	3回以内 〔休眠期は 1回以内、 生育期は 2回以内〕	散布
	褐斑病、つる割病	250		収穫60日 前まで	2回以内		
	黒とう病	1,000					
	枝膨病			休眠期	3回以内 〔休眠期は1回以内〕		
なし	黒星病	250	200～700 ℓ/10a	収穫後～ 休眠期	1回	5回以内 〔塗布剤は 2回以内 液剤は1回以内〕	
	黒斑病	250					
もも	縮葉病	250～500	200～700 ℓ/10a	休眠期	3回以内 〔休眠期は1回以内〕	3回以内	
みかん	貯蔵病害 〔青かび病〕 〔緑かび病〕	2,000～ 3,000	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	
	貯蔵病害 〔黒腐病、すす斑病〕 〔白かび病〕	2,000					
かんきつ (みかん、 ゆずを除く)	貯蔵病害 〔青かび病〕 〔緑かび病〕	2,000～ 3,000	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	2回以内	2回以内	
	貯蔵病害 〔黒腐病、すす斑病〕 〔白かび病〕	2,000					
ゆず	貯蔵病害 〔青かび病〕 〔緑かび病〕	2,000～ 3,000	200～700 ℓ/10a	収穫前日 まで	2回以内	2回以内	
	貯蔵病害 〔黒腐病、すす斑病〕 〔白かび病〕 幹腐病	2,000					
マルメロ かりん	腐らん病	1,500	200～700 ℓ/10a	展葉期	4回以内 〔ただし 開花期以降 散布は 3回以内〕	4回以内 〔開花期以降 は3回以内〕	
アスパラガス	茎枯病	1,000	100～300 ℓ/10a	収穫終了後 (冬期まで)	5回以内	5回以内	
りんどう	花腐菌核病 葉枯病、黒斑病	1,500	100～700 ℓ/10a	—	8回以内	8回以内	

⚠ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
3. ボルドー液とは沈殿を生じるので混用しないでください。
4. 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は、専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにしてください。また、塗沫処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させてください。
5. 小麦に対して希釈倍数 250 倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を用いて均一に散布してください。
6. りんごに使用する場合、以下のことに注意してください。
 - (1) 芽出し 2 週間すぎから落花後 40 日頃までは、さび果、花そうでの軽微な不整葉を生じることがあるので、この時期の散布はさけてください。
 - (2) 展葉期に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生じるおそれがあるので、近接している場合にはかからないように注意してください。
 - (3) 紫紋羽病防除に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので発芽後の処理はさけてください。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理してください。
7. アスパラガスに使用する場合、次のことに留意してください。
 - (1) 若茎に薬液が付着すると茎が曲がることがあるので留意してください。なお、このことによる株養成への影響はみられていません。
 - (2) 夏期高温時の散布では針葉（擬葉）が白化することがあるので使用濃度を守り、朝夕に散布してください。
8. 日本なし、もも、うめなどの果樹、いね、きゅうり、あぶらな科作物、まめ類には葉に薬害を生じることがあるのでかからないように注意して散布してください。
9. かんきつの施設栽培で果実の着色終了前に使用する場合、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時などの極端な多湿条件下での散布はさけてください。
10. ぶどう晩腐病（休眠期散布）の防除の際、500 倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には 250 倍で使用してください。また、ハウス栽培（特に加温ハウス栽培）では、果実に薬斑を生じるおそれがあるので散布はさけてください。
11. 蚕に対して毒性があるので桑にはかからないように注意して散布してください。
12. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
13. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

14. 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
15. 眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時および種子消毒の際には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
16. 皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
17. 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換してください。
18. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
19. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

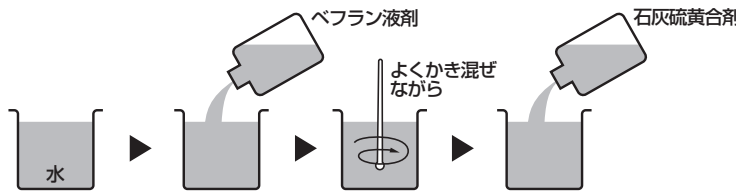
保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に、カギをかけて保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

●ベフラン液剤 25 の上手な使い方

混用上の注意事項

① 石灰硫黄合剤との混用順序



※通常の混用は他剤を希釈調製後、ベフラン液剤を加えてください。